

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成30年6月18日現在

機関番号：24501

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2016～2017

課題番号：16H07128

研究課題名(和文) マーク・トウェインの文学における言葉遊びと暗号

研究課題名(英文) Wordplay and Ciphers in Mark Twain's Literature

研究代表者

衣川 将介 (Kinugawa, Shosuke)

神戸市外国語大学・外国語学部・講師

研究者番号：10779424

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、19世紀米国人作家マーク・トウェインの文学における言葉遊びを使用したテキストの暗号化という表現手法の解明である。まず、トウェインの言葉遊びと暗号に対する関心の痕跡や実践例を彼の出版物、蔵書、ノート、書簡、原稿等を通して調査した。同時に、彼の言葉遊びに対する関心の土壌である19世紀米国社会における言葉遊び文化を調査した。その後、二つの調査結果を統合し、彼の文学を「言葉遊びの暗号的使用」という観点から理解するための批評的枠組みを構築。その枠組みを通して彼のフィクション作品の読解を行った。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to show that the nineteenth-century U.S. author Mark Twain used wordplay as a medium of encryption in his literature. I gathered examples of Twain's wordplay and encryption, as well as evidence of his interest in these two kinds of writing, from his published texts, notebooks, letters, manuscripts, and marginalia. I also conducted research on the culture of wordplay in the nineteenth-century U.S. from which Twain's interest in wordplay developed. I then combined these two perspectives into a critical framework for examining the use of clandestine wordplay as a tool of encryption in Twain's literature. Finally, I used this framework to examine how Twain uses wordplay to encode his prose fiction, mainly his short stories and novels.

研究分野：アメリカ文学

キーワード：Mark Twain マーク・トウェイン Wordplay 言葉遊び Encryption 暗号 アメリカ文学 American Literature

1. 研究開始当初の背景

米国人作家マーク・トウェインの研究は、これまでトウェイン文学をリアリズムの観点から高く評価してきた。また、リアリズムと平行してユーモアもトウェイン文学の重要な要素と定め、研究を重ねてきた。一方、小説の形式面の緻密な設計はトウェインがあまり関心の無い創作上の要素とされ、比較的研究が少ない。特に文字・言葉レベルでの工夫についての研究はわずかである。

こうした傾向のため、従来のトウェイン研究は彼の文学におけるある重要な一面を見落としてきた。すなわち、19世紀の言葉遊び文化に影響を受けて芽生えた、トウェインの言葉遊びを使用したテキストの暗号化に対する関心である。

トウェインの言葉遊びと暗号に対する関心は、これまで興味深い逸話程度の扱いしか受けてこなかった。しかし文学作品の暗号化という主題にトウェインが生涯に渡って強い関心を抱いていたことは、彼の著作物の中に様々な形で見てとれる。また、その関心の根底にある19世紀米国の言葉遊び文化と彼の文学と関連性もほとんど研究されていない。トウェイン文学における形式面での特徴をより総合的に理解するためには、トウェインの言葉遊びや暗号に対する関心を批評的枠組みとし、その枠組みを通してトウェインのフィクション作品を再考することが必要なのではないか。この問いが、本研究の動機である。

2. 研究の目的

本研究の目的は、トウェイン文学における言葉遊びを使用したテキストの暗号化という表現手法の解明である。19世紀後半より米国の国民的作家として扱われてきたトウェインの研究史は長く多様である。しかし、彼の文学における主に言葉遊びを使用した暗号の存在とその意義を指摘した研究は皆無に等しい。本研究は、トウェイン自身の言葉遊びや暗号への関心と19世紀米国社会における言葉遊び文化を参照枠に、*The Adventures of Tom Sawyer* (1876)、*The Prince and the Pauper* (1881)、*Pudd' nhead Wilson* (1894)、*Tom Sawyer, Detective* (1896)といった小説における言葉遊びの解読を通じて、言葉遊びによる暗号化がトウェイン文学の重要な技法であることを証明する。従来トウェインは、テキストの単語や文字レベルでの設計にあまり興味が無い作家とみなされてきた。本研究は、トウェインが言葉遊びと暗号という緻密な形式上の工夫が求められる表現手法を使用していることを示すことで、彼のフォルマリストとしての新たな側面を

提示し、その創作技法と作品理解の根本的な再考を促す。

本研究の新規性は、第一にトウェイン文学における言葉遊びと暗号という表現手段の重要性を明らかにしている点である。まず言葉遊びの暗号的使用法が、トウェイン作品にとって不可欠な形式面での要素であることを示す。同時に、言葉遊びの暗号的使用が行われているという事実は、トウェインの作品を従来よりもさらに注意深く、単語・文字レベルの細やかさで読む必要があることを示唆している。つまり本研究は、トウェイン作品の読み方の幅を広げるという意義も持つ。

同時に、本研究は米文学史にも貢献する。19世紀米国における文学と言葉遊び文化の関係を扱った研究は少ないが、マイケル・ウェストの *Transcendental Wordplay* (2000) がその代表例である。米文学と暗号の関係に関しては、ショーン・ローゼンハイムの *Cryptographic Imagination* (1996) が代表的な研究である。しかし、前者の議論はアメリカン・ルネッサンス期の作家に限定され、後者はポーの文学における暗号の諸相とその20世紀文学への影響を主眼としており、どちらもトウェインが活躍した19世紀後半のリアリズム期文学にはほとんど言及していない。本研究は、ウェストやローゼンハイムの研究に依拠しつつ、リアリズム期の重要な作家であるトウェインの言葉遊びと暗号に対する興味の文化的背景を明らかにする。その結果として、従来対立的に捉えられがちであったアメリカ・ルネッサンス期とリアリズム期文学が、実は同じ文化的背景に根ざした言葉遊びの暗号的使用という技法で繋がれていること証明する。

3. 研究の方法

約1年半の研究期間中にトウェインの雑誌・新聞記事、小説原稿、蔵書、書簡、未出版のノート等における言葉遊びと暗号の使用例と言及箇所を調査を行った。また、言葉遊びや暗号に関する研究も調査した。その結果を統合して長編作品を読み解くための批評的枠組みを構築し、作品の読解を開始している。

1年目の前半は、トウェインの初期の雑誌・新聞記事における言葉遊びと暗号の使用例と言及箇所を精査した。トウェインがジャーナリスト兼編集者として最も積極的に言葉遊び文化に参加していた50年代後期から70年代初期までの雑誌・新聞記事を集中的に調査した。資料としては、初期作品(1851-1865)を集めた *Early Tales and Sketches Vol. 1-2* (1979、1981) や、雑誌 *The Galaxy* の記事を収集した *Contributions To The Galaxy, 1868-1871* (1961) などを中心に使用した。ま

た、本研究に必要な研究書の一部も収集した。*The Adventures of Tom Sawyer*の原稿のフアクシミリ版も入手し、精査した。

2年目の前半は、米国テキサス大学オースティン校 Harry Ransom Center より *Pudd' nhead Wilson* 執筆時に使用されていた未出版のノートを集め、精査した。また、トウェインの所蔵図書も精査を行った。

2年目後半は、カルフォルニア大学バークレー校バンクロフト図書館内におけるトウェインの原稿類を対象とした資料調査も実施した。その後、それまでの調査結果を統合し、トウェインのフィクション作品を読解するための批評的枠組みを構築した。また、完成した批評的枠組みを応用して小説の読解を進め、最終的な目標である英文単著の原稿の作成を開始した。

4. 研究成果

< 研究の主な成果 >

2016-2017年度

1) Northeastern Modern Language

Association (NEMLA)においてトウェインの探偵小説に関する研究発表を実施：2017年3月24日に米国メリーランド州ボルチモア市にて *Realism in American Detective Fiction* と題したパネルを共同チェアとして主催。その一環として “*Realism and Conjecture in William Faulkner and Mark Twain's Detective Fiction*” と題した発表も行った。発表内容の一部として、Twainの探偵小説における言葉遊びの使用例を扱った。

2) 言葉遊びと暗号に関する出版済みの資料の収集・精査を実施：トウェインの初期の雑誌・新聞記事に加え、フィクション、ノンフィクション、書簡集、ノート、原稿等の資料及び本研究に必要なトウェイン研究書の一部を収集し、内容の精査を行った。また、言葉遊びや暗号に関する研究書やトウェインがこれらのテーマと関連して興味を持っていた著作物の一部を収集し、内容の精査を行った。

2017-2018年度

3) 言葉遊びと暗号に関する未出版資料の収集・整理 A: 米国カルフォルニア大学バークレー校、バンクロフト図書館内の Mark Twain Project (資料館) にて、2018年2月12日-16日の間に資料調査を実施。当初から計画していた *Tom Sawyer, Detective* の原稿とトウェインの使用した辞書・辞典・暗号関連の本に加え、言葉遊びへの言及や実例を

含むノート、手紙、散文作品の原稿を閲覧し、一部データ化。帰国後、資料の解読と整理を行う。

4) 言葉遊びと暗号に関する未出版資料の収集・整理 B: 米国テキサス大学オースティン校 Harry Ransom Center より *Pudd' nhead Wilson* 執筆時に使用されていた未出版のノート及び小説 *A Murder, A Mystery A Marriage* の原稿を PDF 形式で購入。トウェインの言葉遊びや暗号に対する興味との関連性という視点から精査した。

5) 批評的枠組みの構築と小説の読解: 1・2年目の調査結果を整理し、批評的枠組みとして統合。その枠組みを使用したフィクション作品の読解を開始した。同時に、単著原稿の執筆も開始している。読解と原稿執筆は概ね順調ではあるものの、完了はしていない。

< 国内外における成果の位置づけ >

本研究の成果は2種類に大別することができる。

1) 資料の収集・整理に関わる成果

Mark Twain Project 及び Harry Ransom Center を利用しての資料調査の結果、出版済み資料には無い新たな暗号ないし言葉遊びへの言及や実例を発見することができた。すでに見つけていた資料と合わせることで、より充実した暗号ないし言葉遊びへの言及や使用例のデータベースを作ることができた。こうしたデータベースは国内外に存在せず、おそらく初めての試みである。

収集・整理した資料はトウェインが様々なジャンルに渡って言葉遊びや暗号を頻繁に使用していたことを裏付けるものであり、彼の文学における言葉遊びの暗号的用法の解明に重要な意義を持つ。整理した資料の学術的インパクトは、それをもとに構築される批評的枠組みを通して発揮される予定である。

2) 批評的枠組みの構築に関する成果

トウェイン文学における言葉遊びを使用したテキストの暗号化という表現手法の解明に必要な批評的枠組みの構築を進めることができた。批評的枠組みを構成するのは、まず Mark Twain Project 及び Harry Ransom Center より収集した一次資料、トウェインの雑誌・新聞記事、書簡、ノート、原稿、蔵書等における言葉遊びと暗号の使用例及び言及箇所といったトウェイン自身の執筆物。そして英米、特に19世紀米国における言葉遊び文化に関する先行研究である。「言葉遊び」という視点から行ったトウェイン研究は国内外においてほとんどなく、「言葉遊び」と

「暗号」を融合させた視点からトウエインの文学を理解しようとする試みはほぼ皆無である。従ってこの視点からトウエイン文学を理解するための批評的枠組みを構築できたことは、トウエイン研究にとって大きな成果であると言える。

<成果のインパクト>

上記の枠組みを通して行われた読解の最終的な成果物として予定されている英文単著は、その意義と新規性という点で国内外のトウエイン研究及び英米文学における言葉遊び研究の分野に少なくないインパクトを与えるであろうことが期待できる。

<今後の展望>

主に散文作品の読解を進めつつ、その結果を単著にまとめる作業を同時並行で行なっている。2018年度中に研究書の原稿が完成し、出版社選定に入る予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計1件)

衣川将介、"Realism and Conjecture in William Faulkner and Mark Twain's Detective Stories." Northeastern Modern Language Association, 米国メリーランド州、ボルチモア市。2017年3月24日。

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

衣川将介 (KINUGAWA, Shosuke)
神戸市外国語大学・外国語学部・講師
研究者番号：10779424

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

()